

問1 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器のうち、銅とスズの合金で作られ、主に豊作を祈るなどの祭祀（祭り）の儀式に用いられた道具の総称を何というか。（2022年 島根公立入試 類似）

1. 青銅器 2. 鉄器 3. 土器 4. 打製石器

問2 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落（ムラ）の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため 2. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐる対立したため 3. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため 4. 大陸から伝来した仏教の布教をめぐり、信仰の違いから衝突が起きたため

問3 3世紀の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏へ使節を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られたものの組み合わせとして適切なものはどれですか。（2019年 広島公立入試 類似）

1. 親魏倭王の称号と、金印や百枚の銅鏡 2. 漢委奴国王の称号と、金印 3. 倭王の称号と、仏教の経典や寺院の設計図 4. 大王の称号と、鉄製の武器や農具

問4 弥生時代に製作された青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面には当時の生活の様子や動物の文様が刻まれている「銅鐸（どうたく）」は、主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた 2. 集落間の戦いにおいて、敵を攻撃したり威嚇したりする武器として用いられた 3. 収穫した穀物を煮炊きしたり、保存したりするための調理器具として用いられた 4. 衣服を織るための繊維を整えたり、糸を紡いだりするための機織り用の道具として用いられた

問5 稲作が朝鮮半島から伝わり、人々の生活が変化した時代に使用された道具の説明として、最も適切なものはどれですか。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた 2. 魔除けや食物の豊かさを祈り、土製の人形である土偶が作られた 3. 権力者の墓の周囲に並べるために、埴輪が作られた 4. 日本独自の貨幣として、富本銭が発行された

問6 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった 2. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた 3. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた 4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

問7 大陸から伝わった稲作が日本各地に広まったことは、当時の社会のあり方に大きな変化をもたらしました。収穫物の貯蔵という観点から、稲作の普及が社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。 2. 食料を保存する必要がなくなったため、人々は定住をやめて獲物を追いかける移動生活へと戻った。 3. 収穫物を平等に分配する仕組みが完成したため、ムラ同士の争いは完全になくなり平和な社会が実現した。 4. 収穫した稲を加工するために、鉄器よりも先に漢字が伝来し、役所による管理体制が全国で確立した。

問8 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。 2. 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。 3. 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。 4. 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることが目的となったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実用的な道具というよりも、村の祭礼や儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。
問2	答え 1 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問3	答え 1 親魏倭王の称号と、金印や百枚の銅鏡	卑弥呼は239年に中国の魏へ使節を派遣しました。当時の中国は魏・呉・蜀が並立する三国時代であり、卑弥呼は北方の魏と結ぶことで外交的な後ろ盾を得ようとした。魏の皇帝はこれに応え、「親魏倭王」の称号とともに、その権威を象徴する金印や、当時の日本列島では希少だった銅鏡などを授けました。
問4	答え 1 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた	銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器の一つです。当初はつり下げて鳴らす楽器として使われていたと考えられていますが、次第に大型化し、豊作を祈るための祭礼や儀礼において重要な役割を果たす「祭祀具（さいしぐ）」として用いられるようになりました。表面に刻まれた鹿や農耕の様子などの文様は、当時の生活や信仰を知るための貴重な史料となっています。
問5	答え 1 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた	稲作が始まり、金属器が使用され始めたのは弥生時代です。この時代には、実用的な鉄器とともに、祭祀用として銅鐸などの青銅器が作られました。土偶は狩猟採集中心の縄文時代、埴輪は古墳時代、富本銭は飛鳥時代のもです。
問6	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での取引が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問7	答え 1 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。	稲作によって食料の安定的な確保が可能になりましたが、同時に収穫したコメを貯蔵できるようになったことで、それが「富」としての価値を持つようになりました。これにより、多くのコメを持つ者と持たざる者との間で貧富の差が生まれ、さらに水や土地を巡るムラ同士の争いが発生し、社会の階層化が進む要因となりました。
問8	答え 1 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。